

平成27年度第2回帯広市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成27年8月6日（火）午後3時00分～午後4時30分

場 所：帯広市役所10階第6会議室

出 欠：出席 13名、欠席 4名 事務局 4名、委託事業者 2名

会議概要

1. 開会

（中尾会長）

7月1日に、国土交通大臣表彰の授賞式に出席してきました。後程、事務局から詳しくご報告させていただきます。

今回の会議では、前回お話しした調査事業について、委託事業者決定の報告のほか、調査内容についてご説明し、皆様の意見をいただきたいと思います。

（黒田事務局長）

本日の会議は委員17名中13名の委員に出席いただきました。規約第6条第2項による過半数の出席があることから、会議が成立していることを報告致します。

2. 議事

（1）地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰の受賞について

事務局より説明 資料2

（2）地域公共交通網形成計画策定調査業務の委託事業者について

（事務局）

今年度実施する計画策定調査については、専門性が高いことから、優れた調査スキルを有する民間事業者に委託することで、前回の協議会でご承認いただき、事務局において事業者の選定を行いました。

業者選定にあたって、交通計画策定に関する調査業務が可能で実績のある事業者3社から見積書の提出をいただいた結果、一般社団法人 北海道開発技術センター様に業務を委託することに決定しましたので、ご報告致します。

（中尾会長）

皆様からご質問等ありますでしょうか。

～ 質問なし ～

（3）地域公共交通網形成計画策定調査業務の委託について

事務局より説明 資料3

北海道開発技術センターより説明資料4

(中尾会長)

ただ今、事務局から全体のスケジュールについて、北海道開発技術センターから調査内容について説明がありました。

まず、全体スケジュールについては、いかがでしょうか。

～ 異議なし ～

(中尾会長)

では、調査内容について、ご意見ご質問等いかがでしょうか。

(毎日交通 千葉委員)

資料4のp5、基本調査の収集データの件で、今は平成27年で、通勤通学の実態のデータが平成17年パーソントリップ調査、平成22年度国勢調査となっておりますが、今後5年間の計画を作成するときに、もう少し新しいデータがあった方がよいのではないのでしょうか。

p13、高校生へのアンケートについて、高校生の通学利用は利用者数の動向に大きく作用すると思いますが、高校生のバス利用には“自家用車で送迎”との記述もあるように、保護者の判断もあると思います。距離なのか料金なのかわからなけれどあると思う。自宅から学校が遠ければ確実にバスに乗るだろうけど、近くの人なぜ乗らないのか把握できるような調査の方法をとってはどうか。

(北海道開発技術センター)

国勢調査は今年度予定されていますので、結果がまとまり次第活用していきます。

高校生へのアンケートについては、保護者の方への調査を追加し、ご指摘の件について把握に努めたいと思います。

(毎日交通 千葉委員)

平成17年度のパーソントリップ調査について、現状これに代わるものがないのであれば、この10年間やこれからの5年間で推計する方法がないのでしょうか。

また、それぞれ年度が違う統計をもとに答えを出そうとしたときに、正しい答えが出るのかということが少し疑問に思います。スケジュール的にはタイトかと思いますが、何か補間する方法はないのでしょうか。

(北海道開発技術センター)

対応策としては、それぞれのデータの年度を最新のものを使うというのが現実的な対応となります。

(毎日交通 千葉委員)

特に平成17年度からは市内の道路も大きく変わっているので、厚生病院の移転といった今後の予定も含めて、これらを補間できるといいと思います。

(中尾会長)

市役所の横断的な体制もありますので、情報共有することは可能だと思います。

(十勝バス 長澤委員)

今回は協議会に市役所の他部署の方も入っているので、都市計画課さんとかで持っているデータで可能な限り補間できたらいいのではないのでしょうか。

(中尾会長)

この件については、北海道開発技術センターさんよろしくお願いします。

(北海道開発技術センター)

わかりました。

(帯広運輸支局 頼本委員)

p 9、冬期の定時性調査について、調査日をあらかじめ決めて行うのでしょうか。その場合、調査日に雪が降らないと調査データが使い物にならないと思いますが、どのような手法で調査を行うのでしょうか。

(北海道開発技術センター)

調査で使用を想定している、ドライブレコーダーやデジタルタコメーターは、一定期間データを保存しておくことができますので、悪天候になった数日以内にバス事業者様にお伺いして、データを精査させていただくことを考えております。

(企画総務課 福原委員)

p 7、公共交通網の現状整理で、乗継利用者の捕捉イメージがJ R・都市間バスからその他の交通機関への一方通行になっていますが、逆方向の調査は行わないのでしょうか。

あと、OD調査のODとはどういう略の言葉なのか教えてください。

(北海道開発技術センター)

乗継状況については、帯広駅から、と帯広駅まで、の双方向で把握したいと考えています。

OD調査のOは出発地 (origin)、Dは到着地 (destination)の英語の頭文字をとったものです。一般的な乗降調査ですと、バス停ごとに「乗った人」、「降りた人」の人数はわかりますが、「どこで乗った人がどこで降りたか」はわかりません。それが把握できるのがOD調査になります。

(観光課 加藤委員)

p 16、バスロケーションシステムについて、他市で導入しているシステムの状況はどのようになっていますか。

(北海道開発技術センター)

近年は新しい事業者の参入により導入実績も増えております。道内では函館市(函館バス)さんが施設に設置しており、最近スマートフォン対応のものを導入しています。札幌市では一部の事業者が「バスキタ！」の実証実験を実施しています。

(十勝バス 長澤部長)

バス事業者としても、バスロケへの想いはあります。冬期間のバスの遅れに対しても、遅れの状況がわかればお客様も一時暖かい場所で待つということもできるので、特に冬期間は有効だと思います。

当社でも導入に向けて試験的に取り組んでおり、できれば本格導入に向けてやっていきたいと考えています。各事業者さんもバスロケの必要性は感じていると思いますが、ランニングコストがネックになっており、当社では低コストでできるものの開発を進めているところです。

旭川市でも10月から2社で試験実施しており、4月以降が本格導入になると思います。やはり、北海道だからこそ必要になってくるのかなと思います。

(中尾会長)

p14、調査項目について、路線バス利用者への調査項目が一番多く、市民や地域の代表者の調査項目に●のついていない項目は調査しないということだと思いますが、そこが、もったいないなと思いました。例えば、地域の代表者もバスを利用したことがあるでしょうから、聞いてもいいのではないかなと思ったのですが。

(北海道開発技術センター)

一般的に地域の意見を聞く場合には、たくさんの方に調査をさせていただいて何割がこういう意見です。という整理をします。しかし、今回は地域の代表の方1人にお聞きする形のため、「この人の意見が地域すべての意見か」と考えたときに望ましい設問とそうでない設問があるかと思います。路線再編となったときに、「この地域にはどういう路線が必要か」「この地域にはこういう需要があります」というような、個人よりも地域がメインになるような設問を、地域の代表者の方にはさせていただきたいという意図があったところです。

(十勝バス 長澤委員)

できれば、連合町内会長の関係はアンケートの他に、ヒアリングもできると、より詳しい情報が取れるのではないのでしょうか。

(企画課 佐藤委員)

p15、利用実態調査の調査項目の概要中、満足度については、どのような答え方をしてもらえるのでしょうか。

(北海道開発技術センター)

例えば、バスの運行ルートについていかがですか、という設問に対して、「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」という5段階でご回答いただき、それらを点数化して整理します。

(企画課 佐藤委員)

バス待合所の老朽化対策の意向の把握については、どのような答え方になるのでしょうか。

(北海道開発技術センター)

設問の流れとしては、待合所の利用経験や認知について→待合所の機能として知っているものや新たに望むもの→待合所の重要性や必要性→現状を維持して老朽化対策をするか、機能を拡大・縮小して改築を行うか、というようにお聞きしようかと考えております。

(ハイヤー協会)

p 8、ヒアリングの調査のデータの数がそれなりの数になり、集計が手作業になるため、少々お時間をいただきたいと思います。

(事務局)

事前に項目等をお知らせさせていただきます。

(中尾会長)

調査内容については、色々なご意見、ご指摘をいただきましたので、それを踏まえた上でチューニングをして、よりより内容にしていきたいと思います。

全体を通して何かございませんか。

～ 特になし ～

3. 閉会

(中尾会長)

これで平成27年度第2回帯広市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。大変お疲れ様でした。